

# 令和6年度 神吉中学校 学校評価(関係者評価)シート

A できている B だいたいできている C あまりできていない D できていない

重点目標	評価項目	自己評価		改善の方策	自己評価の適切さ(関係者評価)	達成状況
		評価	総合評価			
心の教育の充実	いのちや心を大切にす教育の推進	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>いのちや心の大切さについて生徒が主体的に考える機会を充実させる。</li> <li>生徒会活動や学級活動等を通して、生徒が主体的にいじめ防止等に取り組む学校風土を構築する。</li> <li>教育相談や「学校生活に関するアンケート(アセス)」、「心の相談アンケート」の実施により、生徒の内面理解に努めるとともに、いじめを積極的に認知して早期対応につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートから、生徒のいじめ防止に対する意識が高いことが表れている。これは、これまでの取組の成果である。</li> <li>下校時に倒れていた人を生徒同士で協力して救助した生徒がいる。また、生徒アンケートでも、困っている人を助けるという意識が高いことがうかがえる。生徒が主体的に行動することができるのは、すばらしいことである。</li> <li>いじめ防止対策等において、これからも、特定の先生が抱え込むのではなく、チームとして組織的に子どもたちに関わってほしい。</li> <li>教育相談等、子どもたちが相談しやすいように配慮することは大切なことである。</li> <li>体育大会や合唱コンクールなどの学校行事では、子どもたちが主体的に縄跳びの朝練習をするなど、クラスの仲間と一緒に積極的に取り組んでいた。このように、特に学校行事での取組を通して、子どもたちが互いに認め合い、支え合い、高め合う学級づくりが実践できている。</li> <li>不登校生徒に対して、それぞれの子どもが置かれている状況に配慮し、関係機関やカウンセラーとの連携等を充実させてほしい。</li> </ul>	A
	感性に訴える人権教育の推進	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>今日的な人権課題を取り上げた教職員研修を実施し、教職員の指導力の向上及び人権意識の高揚を図る。</li> <li>多様な価値観や今日的な人権課題の理解促進に向けた指導方法の工夫・改善を行う。</li> <li>新制服への改定を通して、性差によらず誰もが自分らしく生きることの大切さについて理解を深める。</li> </ul>		
	考え議論する道徳教育の推進	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が物事を多面的・多角的に捉え、自分自身のこととして考え、他者や自己との対話により生き方についての考えを深めることができるよう、道徳の授業を研究する。</li> <li>豊かな人間性を育てることで、自分を大切にするとともに、互いを思いやり、他者を尊重する心を育むための指導方法を工夫する。</li> </ul>		
	互いに認め合い、支え合い、高め合う学級づくり	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の主体的な活動を充実させ、生徒が自分たちの力で学級をよくしていくという意識を育む。</li> <li>生徒同士が互いに協力して取り組む場面を意図的に設定し、互いに認め合い、支え合い、高め合う集団づくりをめざしていく。</li> </ul>		
	多面的な生徒理解を基盤とした一人一人が大切にされる教育の推進	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談等の充実や日常の生徒との関わりにより、生徒が相談しやすい環境づくりや、生徒との信頼関係の構築に努める。</li> <li>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、メンタルサポーター、生徒指導相談員等の専門スタッフと連携した教育活動を推進する。</li> </ul>		
未来を切り拓く力の育成	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習用端末を効果的に活用して協働学習を取り入れ、生徒が主体的に学ぶ授業づくりに取り組む。</li> <li>「協同的探究学習」の実践等により、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートから、「授業を通して興味や関心を持ったことがあるか」という質問に対して肯定的回答をした生徒が87%と高くなっている。引き続き、生徒の興味・関心を引き出すような授業づくりに取り組んでほしい。</li> <li>本校は給食の残食率が高いという課題がある。栄養をバランスよく摂取することは健康管理や体力の向上につながる大切なことである。食材を生産されている方や、調理してくれている方への感謝の気持ちを持つことも大切である。食育等の充実により、生徒自身に残さずに食べるという意識を持たせる必要があるのではないか。また、時間が足りずに給食を残している生徒がいるかもしれないので、給食の時間に余裕を持たせる必要があるのではないか。</li> <li>教職員アンケートの結果から、学習用端末(Chromebook)を活用した授業を実践した教職員が68%となっている。授業における学習用端末の効果的な活用について、さらなる改善が必要である。学習用端末をより一層効果的に活用できるよう、取組を進めてほしい。</li> <li>多くの生徒がスマホを所持している現状がある。これからは情報モラル教育を充実させ、アプリを使用する際のトラブル防止に努めてほしい。各家庭でも、子どものスマホ等の使用状況を十分に把握し、トラブル防止に努める必要がある。</li> <li>保護者アンケートで、「お子さんは、自分の進路や将来のことについて考えていますか」という質問に対し、肯定的回答が69%にとどまっている。将来の目標や進路等について、各家庭でも子どもと保護者がしっかりと話をすることが大切である。</li> </ul>	B
	学習用端末や大型モニターの効果的な活用及び情報モラル教育の推進	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT担当教員が中心となり、授業における学習用端末(Chromebook)や大型モニターの効果的な活用例を共有する。</li> <li>「情報モラル教室(SNS講習会)」を継続して実施し、ネットの危険性等について生徒や保護者に啓発していく。</li> </ul>		
	生徒の主体性を育む教育の展開	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の興味・関心を引き出す授業を目指し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるようにする。</li> <li>生徒会活動の充実により、生徒が主体的に自分たちの学校をよくしていくという意識を醸成する。</li> </ul>		
	将来の目標に向けて努力する態度の醸成	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育や体験活動等を通して、社会の一員としての自覚や社会参画への意欲を養う。</li> <li>進路指導等を通して、自分の適正や興味、関心について考えさせ、目標を持って学習に取り組むことができるようにする。</li> </ul>		
	自らの健康管理と体力の向上に努める態度の醸成	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等、生徒が主体的に感染防止に努めるように指導を継続する。</li> <li>給食指導を通して、バランスよく栄養を摂取することの大切さを学ばせる。</li> <li>保健体育科の授業や体育大会等の学校行事、部活動等を通して、体力の向上を図る。</li> </ul>		
生徒一人一人のよさや可能性を引き出す教育の推進	あらゆる教育活動を通した「達成感」や「自己有用感」、「自己肯定感」の醸成	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業や学校行事等において達成可能な目標を設定し、それを着実に達成させることにより成功体験を積み重ねさせる。</li> <li>様々な取組を通して、生徒に活躍の場を与えたり、教職員が生徒を認め励ましたりするなど、自己肯定感や自己有用感の醸成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育大会での生徒会競技では、すばらしい演出をしていた。生徒会執行部が自分たちで考えて、あれだけの演出ができたのはすばらしいことである。</li> <li>合唱コンクールでは、それぞれのパートをしっかりと歌い、一体感のある合唱を作り上げていた。学校行事で、生徒が一生懸命に合唱していた姿がすばらしかった。</li> <li>今後も、小さな目標を持たせてそれを達成していく過程で、達成感や自己肯定感を高めさせてほしい。</li> <li>委員や係など、それぞれの生徒に与えられた役割を果たすことは、自己有用感の醸成等にもつながり、大切なことである。</li> </ul>	A
	学びの過程を大切にす、きめ細やかな教育の実践	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>数学科、英語科における「兵庫型学習システム」少人数授業を通して、きめ細やかな指導を充実させ、基礎学力の定着を図る。</li> <li>学校行事等において、子どもたちに身に付けさせたい力を共通理解し、計画的に取組を進めていく。</li> </ul>		
個に応じた支援の充実	生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な配慮や支援を必要とする生徒に対して、教職員間や専門スタッフ、関係機関と連携するなど、「チーム学校」として組織的に対応する。</li> <li>特別支援コーディネーターが中心となって、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートで、「相談できる先生がいる」と肯定的回答をした生徒が87%と高くなってきている。学級担任だけではなく、部活動顧問や養護教諭など、様々な先生がチームとして子どもたちに接してくれている成果である。</li> <li>黒板の文字の色などを工夫するなど、配慮を要する生徒が学びやすい環境づくりに今後も取り組んでほしい。</li> <li>今後も計画的に校舎内の破損箇所などの修繕に取り組んでほしい。</li> </ul>	B
	学びやすい教室環境、学習環境の整備及び多様な学びの場の提供	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎内の破損や危険箇所があれば市教育委員会と連携しながら早急に対応する。</li> <li>生徒会活動や清掃活動等を通して、生徒が環境美化に主体的に取り組むことができるようにする。</li> <li>相談室や、市教育委員会のわかば教室、サテライト教室など、多様な学びの場を積極的に活用していく。</li> </ul>		
	授業における説明方法や内容、教材の提示方法、生徒の活動等の工夫・改善	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>「個別の指導計画」や「個別的教育支援計画」を活用して共通理解を図るとともに、教職員研修を充実させる。</li> </ul>		
保護者や地域と連携・協働した教育活動の展開	保護者や地域への積極的な情報発信等による、開かれた教育活動の推進	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校のホームページ等により、学校の取組や生徒の活動の様子、学校行事の案内などを保護者や地域に積極的に発信していく。また、スクリーンや39メールについても、さらなる有効活用をめざしていく。</li> <li>学校行事や授業参観、オープンスクールなどにより、学校の教育活動を保護者に公開する機会を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創立50周年記念事業では、実行委員会が中心となって、地域や卒業生と学校が一体となった式典を実現することができた。</li> <li>学校ホームページでは、学校での生徒の様子や行事計画などを発信してくれている。それを見ない保護者もいるものと思われる。スクリーン等の活用等により、ホームページをたくさんの保護者に見ていただけるような工夫が必要である。</li> <li>各町の年間計画表にPTA行事を入れてもらうなど、PTAと町内会とが連携することにより、より成果が上がるのではないかと。</li> </ul>	A
	「学校運営協議会」や「創立50周年記念事業実行委員会」を中心とした、地域とともにある学校づくり	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会委員から学校運営等に関するご意見をいただきながら、教育活動の改善につなげていく。</li> <li>「創立50周年記念式典」の開催を契機に、地域とともにある学校づくりをより一層推進していく。</li> </ul>		
	PTA活動との連携による、よりよい教育活動の実践に向けた協働体制の確立	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA関係各種会合や個別懇談会等を通して、教職員と保護者が互いに連携しながら生徒の健全育成に努める。</li> </ul>		